

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201939		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム(のどか)		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190201939-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出や面会制限を解除し、外出イベントや居室での面会受け入れ等、徐々にコロナ前の生活に戻る事ができた1年間でした。これからも外出する機会を大切に、イベントに力を入れたいと思います。お客様の尊厳を大切に、お客様への言葉使いや相手が不快にならない様、気を付けている。往診にて月2回看護師は週1回、医療との連携にて健康管理を実施し、臨時往診もすぐに対応してもらえることで、お客様やスタッフも安心できる環境にある。認知症対応型通所介護を併設し、1日3名と限定的ではありますが地域の方の認知症ケアの受け皿として運営しております。(現在一時休止中)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ツクイ札幌太平グループホーム」は、JR百合が原駅から徒歩で数分程の静かな住宅地に立地している2ユニットの事業所である。居間や食堂は大きな窓に面した明るい造りで、季節感のある装飾や利用者の写真が数多く掲示されており、温もりのある落ち着いた雰囲気である。今年度新たに着任した管理者は、普段から職員と話をする機会を設けて不安や不満を聞き取り、働きやすい職場環境の整備に努めている。また、職員の資質向上に向けて法人の動画研修を計画的に実施し、報告書を作成することで内容の熟知につなげている。感染症の流行で地域交流や外出は控えていたが、今年度は感染状況を見ながら散歩や買い物、外出行事にも積極的に取り組んでいる。職員と一緒に、篠路神社や馴染みの場所などにも数多く出かけている。ケアマネジメントの面では、利用者の様子を詳しく伝えて家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画に細かく反映させている。食事面では、出張握り寿司やテイクアウト、ファミリーレストランでの夕食、おやつレクリエーションなどバラエティーにとんだ食事を提供している。入浴は、個々の希望やタイミングに合わせて夕方の入浴などにも柔軟に対応している。管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりの尊厳を大切にその方の思いや意向に沿った丁寧なケアを行っているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体の理念に基づいて各階で細かく実践へつなげる為の課題を話し合い、スローガンを掲げながら実践している	開設時、職員と一緒に作成した事業所理念に「地域と共に」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。事業所内の要所に掲示し、年度初めに全職員で再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスが第5類となり、外出制限の解除、ご家族等の面会制限の緩和など、コロナ前の状況に徐々に戻っております。	散歩で近隣の花壇を見ながら住民と話をしたり、近くの店に買い物に出かけている。隣接する同法人のデイサービスの催しに参加して、ボランティアのフラダンスや三味線の演奏を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との関りを今春より、再開する予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍から現在まで、書面会議になっている。今春より、書面ではなく対面での運営推進会議を開催し、サービスへ反映させるよう努めます。	今年度は書面会議を行い、構成メンバーに議事録を送付している。事業所の報告が中心でテーマなどは設けていない。家族に書面で意見を聞いているが、感謝の言葉が多く会議に対する意見までは得られていない。	テーマを記載した会議案内やテーマに沿った簡単な資料を全家族に送付し、参加できない家族の質問や意見も会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当の方へは情報を書面にて提出し、意見書ももらっている	感染症流行のため、書類の提出は郵送で行うことが多くなっている。役所とのやり取りは主に本部が行っているが、何かあればすぐに相談できるように普段から情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を実施している。また2カ月に一度委員会を開催し、身体的な拘束だけではなく、スピーチロックやドラッグロック等について話し合いを行っている。	禁止行為を含む法人独自の指針を作成し、委員会も2か月ごとに実施している。身体拘束に関するチェックリストを年1～2回行い、個別に法人の動画研修を受講して報告書を提出している。研修内容と実施日がわかる書面を整備したいと考えている。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施している。また2カ月に一度委員会を開催し、身体的な拘束だけではなく、スピーチロックやドラッグロック等について話し合いを行っている。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内にて研修を実施し、必要性があれば検討するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時はお客様へ内容の説明を行い、理解が得られているか確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画書の更新時や電話連絡した時等、ご家族様へ要望の聞き取りを行い、お客様へは直接聞き取りを実施し反映させている。また会社のフリーダイヤルや各区役所の連絡先を重要事項説明書に記載し、説明をしている。	面会時や電話で普段の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、タブレット端末の「家族連携」に記入している。毎月の広報誌で事業所や利用者の様子を伝え、介護計画を送る時に個別の手紙を添えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行い、職員の意見やストレスなど把握に努めている。	管理者は、職員の不安や不満がなくなるように普段から話を聞く機会を設けている。職員の意見や提案を受け、利用者の対応や業務の流れなどを変更することもある。管理者は職員と年1～2回、個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の状況を把握する事は難しいが、会社全体として給与の見直しや過重労働にならない仕組み等整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を年間通じて計画的に行い、任意の研修も職員にも呼び掛けている。また管理者の判断で職員に研修を受ける時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市北区の管理者連絡会議が再開しはじめている。社内ではリモート研修にて全国の事業所と意見交換を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に本人様、ご家族様から情報を収集している。他者との会話にも耳を傾け本人の思いを逃さない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報や初回訪問時の会話や電話でのやり取りを含め、入居前に数回行き回りごとや不安がないか確認しながら、スムーズな入居に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の一番の要望を聞き取るが、本人の課題なのか家族の課題なのか、見極めながらカンファレンスで話し合い、ほかの課題も一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上での家事等、本人が出来ることを一緒に行ったり、お任せしてお願いする事もある。本人の意欲を引き出せるように言葉をかけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接電話を繋げ、話す機会を作っている。欲しいもの等ご本人から伝える機会をつくっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の解禁、面会制限の緩和を行い、徐々にコロナ過前の状況に戻っている。	近隣に住んでいた方が訪ねて来る利用者もいる。職員と一緒に篠路神社やJR太平駅など、馴染みの場所に出かけている。以前住んでいた所や仕事に関する場所に出かけており、市民農園などを見に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えをしたり、レクリエーションの場面で関わりを注意深く見て、お世話好きの方は他者へ支援することがある為、見守りなが支え合えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の経過を聞き取り、状態に応じて対応出来る事をご家族へ伝え、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望を聞き取る様に努めている。また聞き取り困難な場合は、職員同士で本人に成り代わって皆で検討している。	会話や表情、行動や声のトーンなどから思いや意向を把握したり、家族から情報を得ている。利用開始時に「私の暮らし方シート」(B-3)を作成しているが追記や更新は行っていない。	趣味や嗜好などの変化に応じて「私の暮らし方シート」に具体的に追記したり定期的に更新し、利用者の現状が書面で情報共有できるような取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴や今までの暮らし方や生活環境等、ご家族に書いてもらい、職員が把握できる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人一人を観察し変化を情報共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、現状の把握と家族や医師の意見を反映させ計画書を作成している。	毎月のカンファレンスと3か月ごとの全職員の評価を基に、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者の状況を詳しく伝え、家族の意向を具体的に聞き取り介護計画1表に反映させている。日々の様子はタブレット端末に記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に職員間では情報を共有し、カンファレンスにて見直しを行っている。タブレット入力にて既読の確認が出来るようになった		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決めつけないサービス作りを心がけ、柔軟な支援が出来る様心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出イベントが再開され、徐々に地域との関りが持てるように支援します。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は往診にて対応しており、ご家族の希望も効きながら適切な医療が受けれる様、主治医と連携を取り、内科以外も受診対応を行い、ご家族にも協力を得ている。またご家族様の協力がかかりつけ医の受診を受けている。	全員が訪問診療を受けている。専門医などを家族と受診する時は、利用者の状況や家族の意向で訪問医が書いた手紙を持って行くこともある。受診記録はタブレット端末に記入している。	

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携にて決まった看護師が来ており身体状態や近況の変化を伝え、適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院への情報を適切に伝え、主治医からも入院先へ情報提供してもらっている。また、退院が出来る時期等現状の状況等も病院と連絡を取って把握し、関係性を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は契約時に説明し、さらに状態変化の段階から急変時等の判断や今後の方針等、事前医師確認書を活用し、ご家族も含めて話し合いを行っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って説明し、希望に応じて看取りを行うことも伝えている。家族に「看取りに関する事前確認書」で意向を確認し、毎年書面で再確認している。ここ3年間で3名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修にて実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の災害時を想定し避難訓練を実施している。また、地域の協力が得られるよう、町内会への情報共有など今後の課題です。	年2回、昼夜の火災を想定した自主訓練を行っている。感染症の流行で消防署や地域住民の協力は得られていない。職員の救命講習の受講を進めるとともに、災害時の暖房器具を整備したいと考えている。	感染症の収束状況を見ながら、避難訓練に消防署や地域住民の協力が得られるような働きかけを期待したい。また、災害時におけるケア別の個別対応について職員間で話し合うよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の表情、意思、気持ちを伺い、不適切な発言の無いよう事例研修を通じて個人尊重の意思向上に努めている。	法人の動画研修で毎月言葉かけや接遇に関して学んでいる。申し送りはタブレット端末やインシヤルを使用し、書類は事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には本人に伺う。意思表示が難しい方へは表情からくみ取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員目線とならないように、施設内の取り組みに必ず参加するのではなく、ご本人の調子や気分に合わせて暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服が好みの方にも、違う洋服を勧めたり、訪問美容の利用等、ご本人の希望に合った身だしなみが出来る様支援している。サイズの変更や古くなった衣類など、ご家族様と相談し用意していただく。髭剃りなども定期的な手入れをしている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や行事食の提供、お客様に食べたい物を確認している。	法人作成の献立を使用している。下拵えなどで利用者も調理に参加している。レストランや回転寿司などの外食もある。おやつレクリエーションもあり、食事の楽しみが多くなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜をバランスよく提供している。水分が摂れていない人には好みの飲み物や色々な飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な場合、歯間ブラシを使用し、お手伝いをしている。治療が必要な方は訪問歯科と連携して対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を大切に、尿意の有無を聞き、移動の、トイレへ誘導しなるべくトイレで排泄出来る様努めている。また、寝たきりの方でも定時に確認し早めに交換できる様努めている。	排泄表とタブレット端末を使用して排泄状況を記録している。自立している方もおり、昼夜ともに可能な限りトイレでの排泄を支援している。時間帯や仕草を見ながら声かけ誘導を行うことで失敗を減らし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、便秘の方にはごぼう茶、牛乳やヨーグルトを交互に提供、個別の体操など行うなど予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけ断られた場合は無理強いせず、時間をずらしたり、別日に気持ち良く入浴出来る様支援している。	週6日の入浴日を設け、一人当たり週2回程の入浴を支援している。同性介助にも対応している。柚子湯など、季節のお風呂も利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠へ繋げるよう、日中はお手伝いや運動等行いながら、個別にて昼寝もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等も含め情報を共有している。また薬の効き目や変化等もご本人にも伺い、医師や看護師へ伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みの家事がある為、それぞれに合った役割やレクリエーション、外出等の楽しみを支援している。食べたい物を定期的に伺い提供している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出イベントの再開、レストランへの外食、庭での花の水やり近くの公園、車内ではあるが桜を見に行くなど徐々に外出の機会が増えている。	天候のよい日は、事業所周辺や近隣の公園を散歩している。冬季もゴミ出しなどで外気に触れる機会がある。毎月の外食行事で、外食先の近隣公園などで外気浴も行っている。コンビニエンスストアやスーパーマーケットでの買い物支援を行い、日常的な外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別で、ご家族に電話ができる機会を作っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾以外に、外出イベントでの写真などご家族様が訪問された時にも見えるよう掲示している。	ソファやテーブル、テレビも複数台あり思い思いの場所で過ごすことができる。天井や壁面にひな祭りや節分などの装飾が施されており、季節感が感じられる。利用者と職員の外出先での写真が廊下に掲示されており、家庭的な温もりが感じられる。エアコンや空気清浄機も設置されており、快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格や好みを考慮し、時には席替えをしたり、場所を誘導したりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものや写真等等に包まれご本人が落ち着ける様工夫している。	クローゼットが備え付けられている居室に、椅子やタンスなど馴染みの家具が持ち込まれている。テレビやラジオなどの家電製品、仏壇などを持ち込んでいる方もいる。生花を飾るなど、その人らしい落ち着いた室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分かる様に廊下から見える様に大きな文字にしている。また危険なことがないか予測を立てながら環境作りを行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201939		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム(そよぐ)		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0190201939-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出や面会制限を解除し、外出イベントや居室での面会受け入れ等、徐々にコロナ前の生活に戻る事ができた1年間でした。これからも外出する機会を大切に、イベントに力を入れたいと思います。お客様の尊厳を大切に、お客様への言葉使いや相手が不快にならない様、気を付けている。往診にて月2回看護師は週1回、医療との連携にて健康管理を実施し、臨時往診もすぐに対応してもらえることで、お客様やスタッフも安心できる環境にある。認知症対応型通所介護を併設し、1日3名と限定的ではありますが地域の方の認知症ケアの受け皿として運営しております。(現在一時休止中)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体の理念に基づいて各階で細かく実践へつなげる為の課題を話し合い、スローガンを掲げながら実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスが第5類となり、外出制限の解除、ご家族等の面会制限の緩和など、コロナ前の状況に徐々に戻っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との関りを今春より、再開する予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍から現在まで、書面会議になっている。今春より、書面ではなく対面での運営推進会議を開催し、サービスへ反映させるよう努めます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当の方へは情報を書面にて提出し、意見書もらっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を実施している。また2カ月に一度委員会を開催し、身体的な拘束だけではなく、スピーチロックやドラッグロック等について話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施している。また2カ月に一度委員会を開催し、身体的な拘束だけではなく、スピーチロックやドラッグロック等について話し合いを行っている。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内にて研修を実施し、必要性があれば検討するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時はお客様へ内容の説明を行い、理解が得られているか確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画書の更新時や電話連絡した時等、ご家族様へ要望の聞き取りを行い、お客様へは直接聞き取りを実施し反映させている。また会社のフリーダイヤルや各区役所の連絡先を重要事項説明書に記載し、説明をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行い、職員の意見やストレスなど把握に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の状況を把握する事は難しいが、会社全体として給与の見直しや過重労働にならない仕組み等整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を年間通じて計画的に行い、任意の研修も職員にも呼び掛けている。また管理者の判断で職員に研修を受ける時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市北区の管理者連絡会議が再開は始めている。社内ではリモート研修にて全国の事業所と意見交換を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ過が軽減され面会の場が増え、コロナ禍以前のような状態に戻りつつあり、ご家族様も安心している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談の時間を作り、家族が困っていた事、これからの要望等、聞き取りを実施して関係性作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の一番の要望を聞き取るが、本人の課題なのか家族の課題なのか、見極めながらカンファレンスで話し合い、ほかの課題も一緒に考えている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活の場として寄り添い、共に助け合える関係として暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り状況報告をしながら、課題についても助言を求めたり、情報を得る事で本人への支援に繋がっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた場所や人間関係の話等、馴染みの人の話では楽しそうにしている。コロナ禍でも工夫しながら面会ができる様に努めている。(リモート面会や窓越し、直接会う時間の制限等)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく団らんでできる環境作りとして、席替えを行ったり、一緒にできるレクリエーションを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の経過を聞き取り、状態に応じて対応出来る事をご家族へ伝え、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り困難な方が増えている。ご家族様への情報収集や、本人の様子を確認し、何に困っているかアセスメントを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴や今までの暮らし方や生活環境等、ご家族に書いてもらい、職員が把握できる様努めている。本人からの聞き取りも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人一人を観察し変化を情報共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、現状の把握と家族や医師の意見を反映させ計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に職員間では情報を共有し、カンファレンスにて見直しを行っている。タブレット入力にて既読の確認が出来るようになった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態は常に変化、ニーズの変化もある為カンファレンス無いでその都度情報を共有している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアが来て、皆さんと交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は往診にて対応しており、ご家族の希望も効きながら適切な医療が受けられる様、主治医と連携を取り、内科以外も受診対応を行い、ご家族にも協力を得ている。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携にて決まった看護師が来ており身体状態や近況の変化を伝え、適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院への情報を適切に伝え、主治医からも入院先へ情報提供してもらっている。また、退院が出来る時期等現状の状況等も病院と連絡を取って把握し、関係性を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は契約時に説明し、さらに状態変化の段階から急変時等の判断や今後の方針等、ご家族も含めて話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修にて実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の災害時を想定し避難訓練を実施している。また、地域の協力が得られるよう、町内会の連絡網を作成してもらっている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の表情、意思、気持ちを伺い、不適切な発言の無いよう事例研修を通じて個人尊重の意思向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には本人に伺う。意思表示が難しい方へは表情からくみ取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の取り組みに必ず参加するのではなく、ご本人の調子や気分に合わせて暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服やスキンケア用品の継続、訪問理美容の利用等ご本人の希望に合った身だしなみ出来る様支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの好みを職員間で共有している。行事の時好きな物を提供(お寿司やケーキ)し喜んで頂いている。食器拭きはお客様数名で毎日行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜をバランスよく提供している。水分が摂れていない人には好みの飲み物や色々な飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口が開かない等、困難な方は定期的に訪問歯科利用し、口腔内のケアを実施していただき、また日々のケアについて助言をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を確認しながら、トイレへ誘導しなるべくトイレで排泄出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には少しでも水分を多く摂って頂ける様に提供したり、朝食時にヨーグルトや牛乳を提供し、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけ断られた場合は無理強いせず、時間をずらしたり、別日に気持ち良く入浴出来る様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には温かい飲み物を提供したり、足を温める等安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等も含め情報を共有している。また薬の効き目や変化等もご本人にも伺い、医師や看護師へ伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみやお手伝いを毎日行っている。外の空気を吸いに行く、庭に行く等、気分転換も行っている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食レクの再開、個別のドライブなど、コロナ禍前の状況に徐々に外出の機会が増えている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様が行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や年賀状等ご家族様からの手紙はご本人へお渡しし、読み上げている。携帯電話の使用も可能にし自由に話すことが出来ている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、事故に繋がらないよう配慮した空間を心がけている。またお客様と一緒に季節の装飾を作り飾っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格や好みを考慮し、時には席替えをしたり、場所を誘導したりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものや写真等等に包まれご本人が落ち着ける様工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレの位置が分かる様に廊下から見える様に大きな文字にしている。また危険なことがないか予測を立てながら環境作りを行っている。			

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌太平グループホーム

作成日：令和 6年 3月 31日

市町村受理日：令和 6年 4月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍以降、書面開催が続き対面での会議が実施できていなかった。	対面での運営推進会議を再開、地域との関りを再構築する。	5月実施に向け、開催のご案内。改めて各関係者へのご挨拶、ご家族や地域の方、地域包括など参加していただき、テーマを設けて、意見交換や勉強会などを実施し、地域との関りを構築する。	1年
2	35	災害時訓練の実施や緊急時対応や非常災害時の対応について、年間の研修計画をもとに実施している。消防署立ち会いによる訓練や、地域住民の理解や協力を得られる関係づくりが今後の課題である。	火災以外の訓練や、あらゆる時間帯での想定訓練を計画、実施する。	訓練計画を改めて見直し、夜間想定訓練だけではなく、あらゆる場面(入浴時など)を想定した訓練の実施、消防署立ち会いによる訓練の実施や運営推進会議等を通じ、地域住民の協力が得られる関係を構築する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。